（第２号様式）（用紙日本工業規格Ａ３横長型）

令和８年４月１日

神奈川県教育委員会教育長　殿

県立湘南支援学校長

令和８年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和6年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価（　月　日実施）	総合評価（　月　日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程　学習指導	・「たくましく生きる力」を育てるため、小学部から高等部までの系統性のある教育活動の実践と教育課程の確立を図る。	①実態把握を適切に行い、スモールステップを重視した目標を設定、系統性と主体的な学びの視点を踏まえて個別教育計画や授業計画を立案、実施する。 ②授業反省を共有して授業改善を進め、ＩＣＴ機器を活用して学習環境を整え、効率的に教材研究や授業づくりを行う。	①学部Ｌ、学年Ｌによる助言体制の継続と担任間の読み合わせを充実させる。個別教育計画や指導案作成時に、全学部で系統性の視点と主体的な学びの手立てを取り入れて明記する。 ②学年会やチャットで授業の振り返りと改善案を共有する仕組みを継続する。教材や学習内容の効果的な管理を工夫して進め、ＩＣＴ機器活用を積極的に発信する。	①個別教育計画や指導案に適切な助言がなされ、担任間で検討を行いスモールステップの観点で目標を設定して取り組み、達成できたか。系統性と主体的な学びの視点を指導案などに明記したか。 ②チャットや学年会で改善案を共有し、次の実践に生かせたか。ＩＣＴ機器などで効果的に教材管理・活用したか。ＩＣＴ機器の活用状況が保護者にも分かるように発信したか。					
2	児童・生徒指導・支援	・児童・生徒一人ひとりのコミュニケーション力の向上と自発的な行動の育成をめざし、家庭や地域とも連携した指導・支援の充実を図る。	①児童・生徒の実態に応じたコミュニケーション方法と支援を工夫し、家庭と連携して自発的な行動を育成する。 ②「湘南支援ブランド」を家庭や地域での活用を促進する。視覚支援を整備、活用して意思伝達を充実させる。	①気持ちカードやＩＣＴを活用した指導を拡充し、児童・生徒が主体的に意思を表現できる環境を整備する。具体的な支援例を集め、授業やケース会を通じて意思伝達方法の充実を図る。 ②「湘南支援ブランド」の支援内容や成果について学校公開や地域イベントを通じて積極的に発信する。保護者と連携して児童・生徒がわかる手立てを共有し、一貫した支援を推進する。	①児童・生徒に導入した方法が合っていたか。授業観察・ケース会をどの程度活用し、具体的改善につなげられたか。保護者からのフィードバックや実践の状況を把握し、一貫した支援ができたか。 ②地域や保護者に向け、発信回数や受け取った意見を基に改善できたか。気持ちカードや行事予定の活用実例など、家庭と連携できたか。新たに導入した視覚支援が児童・生徒の意思表出向上に効果的だったか。					
3	進路指導・支援	・自立と社会参加をめざし、児童・生徒一人ひとりのニーズと適性に応じた進路指導・支援を行う。	①キャリアパスポートの活用を進めるとともに、個々のニーズに応じて校外学習や校内実習、作業学習などを通じて自立の力を培う。 ②進路説明会や見学会などで保護者の理解を促進し、進路情報を保護者のニーズに合わせて提供し、安心して次のステージをイメージできる環境を構築する。	①キャリアパスポートや振り返りシートの活用を進め、整理する。校内実習・作業学習の内容や手立てを工夫し、社会性や自己効力感を高めるように取り組んで自立の力を育てる体制を整える。 ②進路説明会・見学会の実施回数を増やし、保護者が気軽に参加できる環境を整備する。保護者アンケートを踏まえ、具体例の紹介、学年通信やホームページなどを利用し、進路情報をいつでも確認可能な形で発信する。	①キャリアパスポート活用状況について内容が整理され適切に活用されているか。校内実習・作業学習の実施率と成果について参加状況や自己効力感が得られたか。校外学習の事前事後学習でねらいを自ら学べたか。客観的な観察を行う。 ②説明会・見学会の実施回数と参加者数を記録し、保護者の満足度をアンケートで評価する。情報提供が保護者ニーズと合っているか、提供した情報が進路決定の一助となったか、ホームページは見やすいか、学年通信を配付し、ホームページに掲載できたか。					

	視点	４年間の目標 （令和6年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （　月　日実施）	総合評価（　月　日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	・共生社会の実現に向け、地域との連携、協働による活動を展開し、障がいのある子どもの理解を推進する。	①地域協働による学習活動の充実として、教科のねらいを明確にし、地域や外部機関を活用して校外学習計画を立て、学校の取組を積極的に発信する。 ②居住地交流と学校間交流の推進に向けて、交流内容と目的を相手校と共有し、児童・生徒が主体的に参加できる環境を整え、達成感を得られる交流活動を継続する。	①各学部で教科のねらいを具体化して計画に反映、校外行事の活動目的を整理する。作品展や地域イベントで成果の発信を積極的に行い、継続して活動内容を地域や外部機関に周知する。 ②相手校との事前打ち合わせを密に行い、主体性を高める内容や体制を整備する。事前学習を実施して見通しを持たせ、個々の状況に応じて、達成感を得られる活動となるように仕組みを整える。	①地域との協働において教科のねらいを活動計画に明示し、児童・生徒や教員が共有できたか。外部機関との作品展や貢献活動等を通じて、地域の方々が学校の取組への理解を深められたか。 ②活動内容と目的が相手校に十分共有されているか。準備が交流当日に効果的に反映されたか。児童・生徒の交流参加への意欲や満足感、活動後の反応、達成感はどれくらい得られたか。					
5	学校管理　学校運営	・安心・安全な学校づくりの推進のため、危機管理体制の確立を図る。 ・人権に配慮した指導支援に努め、組織的に不祥事の未然防止を図る。	①想定外への対応力を高める研修・訓練を継続し、教職員の危機管理能力と安全体制を維持・向上させる。 ②人権尊重に関する研修の計画充実を図り、教職員が日ごろから「さん付け呼称」を行い、肯定的な言葉遣いをする。高等部生活規則の見直しを進め、人権に配慮した内容を検討する。	①災害や緊急事態を想定した避難箇所の再点検とバスポイント情報の共有を定期的に行う。教職員向けに研修と実践的な訓練を実施、自分ごととして捉える姿勢を醸成する。 ②各学部・グループで人権尊重や肯定的な言葉遣いを学ぶ研修等を定期的に行う。人権を大切にしながら働きやすい環境を工夫し、教職員の負担軽減の仕組みを学校全体で整備して不祥事防止に努める。	①点検内容を確認し、改善した点を全校で共有できたか。研修・訓練への教職員の参加状況を確認し、訓練後のアンケート等で危機管理意識の変化を分析、効果が得られたか。 ②研修の実施回数や教職員の変化をアンケート等から人権意識の向上がみられたか。さん付け呼称を自然に行うことができたか。学校内の環境を働きやすく整備できたか。負担を減らす仕組みをつくり、教育活動にゆとりを持って取り組めたか。					